

七

月に行われた多文化社会学部の初めてのオープンキャンパス。その模擬講義で面白い場面がありました。ネイティブの英語がほとんど聞き取れない高校生に、西原俊明先生が「あー」として「わあー」と歓声が上がったのです。一連の出来事は「西原マジック」として高校生の間で話題になりました。その西原先生に、多文化社会学部の英語教育と留学についてお聞きしました。

「日本の中学、高校の英語教育を経てきた学生は、リスニングが弱点である場合が多いです。しかし英語の音の特徴を意識し、その特徴に合わせて発音できるようにすると、聞き取れるようになります。また、リスニングの練習では英語を日本語に置き換えるクセもあるのですが、私たちが独自に開発した速読システムは、画面をフレーズごとに読んでいきスピードを上げていくので、自然と英語を日本語に訳さないようになります。近い将来、スマートフォンなどでもアクセスできるようにして、いつでも速読の練習ができる環境を整えていきたいと考えています。また、私は『やり直しの英語』と呼んでいます。多文化社会学部の授業では、一つの単語に一つの日本語をあてはめるのではなく、

多文化社会学部の

英語教育と

留学

最新システムで
二十四時間学習可
多彩な留学メニューもあり
モチベーションもアップ

Interview

西原俊明

長崎大学言語教育研究センター教授。一九六三年長崎県生まれ。博士(言語学)。専門は言語学。主な著書に「英語と文法」(開拓社)、「Better Health for Everyday Life」(金星堂)、「Cultural Encounters」(ラングージング)などがある。



く、コアをつかむような覚え方を教えたいと思っています。そうすることで、

手持ちの単語でも十分自分の言いたいことが表現できるようになります。英語が怖くなくなりますよ」。

弱点を意識しながら行う新しい学習方法なんです。ところで長崎大学には最新の授業支援ツールがあると聞きました。

「はい、オンラインCALLシステムというもので、教員が電子化した教材を学生がUSBで持ち帰って自習できたり、授業外でもオンラインでPC画面に呼び出して学べるのが最大の特徴です。また学習履歴を教員がチェックできるので、結果だけでなくプロセスも評価の対象にできます。バラ色のキャンパスライフを望む学生には少々きついでしょですが、最短で語学力を磨くことができます」。

留学についてはどうでしょう。

「留学は、TOEFL点を基準にした語学力に応じて様々なメニューが用意されています。海外ボランティア、短期・中期の語学留学、海外フィールドワークや自主企画型のインターンシップなどもこの学部独特のものです。TOEFL対策も念入りに情報収集し模試も行うので、初めてチャレンジする学生でも実力が発揮できるようになります。TOEFLのスピーキングの問題では多少間違っても自信を持ってまとまりのある文をしゃべる方が点数が高いのです。まずは、英語カフェなどでストレスなく気軽にディスカッションする雰囲気づくりから始めますよ」。

これまでの英語の学習を無駄にせず、表現の幅を広げていく英語教育なんです。



Column

中国語モジュール

このモジュールは「中国語総合表現Ⅰ、Ⅱ」「中国語文献討論Ⅰ、Ⅱ」「中国語プレゼンテーション」の五科目五単位から構成されており、教養教育の初習外国語(中国語)と合わせる。一年次から四年次まで、中国語を続けて履修することができます。

講義では、多くの口頭練習を行うことにより、現在の中国で実際に使われている口語の生き生きとした表現を学びます。「中国語文献討論Ⅰ、Ⅱ」では、現在の中国の種々の問題を取り上げ、中国語の文献を中国語で読み、日本語に翻訳し、中国語で討論します。「中国語プレゼンテーション」では、中国語を用いて、課題を探求し、問題を解決し、それを表現する能力を

養成します。アジア地域に関心を持つ学生は、このモジュールを選択することで、アジア社会の理解に必須の中国語コミュニケーション力を養い、アジア地域の大学へ留学することも可能になります。また、中国語による情報収集力と表現力を身に付けることにより、卒業後はアジア地域で広く活躍することもできるでしょう。

Message

真の発見の旅とは、
新しい景色を探すことではない、
新しい目で見ることなのだ
——フランスの作家、マルセル・ブルースト——



カトローニ・ピノ

Pino Cutrone
言語教育研究センター助教

私はこの言葉を、学ぶとは何かということをも端的に示している点で気に入っています。教育者の役割は、新しい知識を学生たちに授けることだけでなく、彼らの周りの世界を新しい洞察的な見方で発見する手助けをすることだと考えているからです。刻々と変化し続ける現代世界において社会に貢献する次世代の人材育成に積極的に取り組むことこそが、教育者にとって極めて重要なことなのです。世界がますますグローバル化し、技術革新が進んだ結果、近年では、求職者に必要なスキルは変化しつづけています。こうした状況に対応した人材育成を視野に入れて、長崎大学は、新学部——多文化社会学部を設置すること

を決定しました。

グローバル化は、私たちの生活の経済的、政治的、社会的、文化的などの多くの側面にはつきりとした影響を与えています。その要求に応えるために、我々の新学部は、人文社会科学の学際的な教育プログラムのための学術的な土台を提供することを目指しています。多文化社会学部では、私は、英語モジュールの科目群と専門モジュールの異文化間コミュニケーションを担当します。

私は、この多文化社会学部のメンバーとして、学生のみさんの英語力を向上させる機会をもてることを嬉しく思っています。世界中で英語の普及とグローバル化が同時かつ相互依存的に広がっている現在、英語能力と異文化間コミュニケーション能力は、皆さんの現代社会での成功を支援する強力なツールです。英語は、国際政治、学術、ビジネス、科学などの分野で使用される現代の国際共通語であり、日本人にとって、英語の活用能力を高めることが、今ほど重要になってくるときはあります。私は、入学される皆さんがこのような課題に挑戦されることを確信していますし、また、皆さんの発見の旅の手助けができることを楽しみにしています。